

坂本・広田両弁護士共通のゴミ問題解決一つに、「(一般生ゴミを) 焼かない、埋めない。」がある。そうは言っても、、と思う方が多いでしょうが、既に解決策が全国で進んでいます。

ハザカプラントです。アイデアを事業化した、葉坂勝社長の考え、想いをご紹介します。

<http://hazakaplant.co.jp/>

有機性排出物をバクテリアの力で高速発酵、分解する環境共生型プラント

SDGsとは「Sustainable Development Goals (サステイナブル・デベロップメント・ゴールズ)」の略称で、「エス・ディー・ジーズ」。日本語では「持続可能な開発目標」と訳され「次世代にこの美しい地球を手渡していくための目標」となる。

日本人は古来より、排泄物を正しく土に還し、そこからまた生命が誕生する循環を繰り返してきた。この「排泄物を正しく土に還す」ことは、大自然の摂理であり、資源循環型社会のもっとも重要な基盤となるもの。

近年、文明や経済が発展したことにより、人間の暮らしは便利で豊かになったけど、モノを棄てるという概念が生まれ、資源循環を遮断した。

江戸時代には幕府からゴミの分別・収集・運搬・処分に関する政令が出され、特に糞尿(下肥)は「金肥(キンピ)」と呼ばれ流通し、地域の農地を肥沃化し、農業生産性を高めていた。だから当時、どの国にもないリサイクルの概念を持った、衛生的で、地域資源循環型の社会が出来上がった。この時代、ヨーロッパではペスト、コレラなどの感染症が猛威を奮っていたけど、日本では流行はほとんどなく、結果的に人口100万人以上の世界の主要都市へと導いたと考えられた。

スクープ式高速発酵処理施設「ハザカプラント」を昭和51年に開発した。自然界では有機廃棄物を資源として循環させるのに数年かかるが、ハザカプラントではバクテリア(微生物)の力を借り、たった25日間で完熟堆肥に変えてしまう。

アトピー、花粉症、昔はありましたか?人間を守ってくれる菌を、燃やして、全部殺したからです。日本には、行政が管理するごみ焼却施設だけで1,103ヶ所もある。(環境省「日本の廃棄物処理(平成29年版)」)

この堆肥を使って収穫された作物は、栄養成分や香気成分に優れ、ミネラルバランスも良好である。人はミネラルが欠如すると、頭がカリカリしがち。食べ物が良いと、心も和むし、高い免疫力を得られる。

いまこそ日本人の先祖が残した知恵、土に還るものは正しく土に還し、命ある土から生まれたミネラルバランスのとれた作物を食す生活スタイルを世界に広めていきたい。